

第43回日本PTA関東ブロック研究大会 長野大会開催

長野県PTA新聞

発行
長野県PTA連合会
長野市旭町1098信濃教育会館内
TEL 026-255-4361
発行者/今井仁志
編集者/赤羽 聡
ホームページ
<http://www.pta-nagakenet>
E-mail
office@pta-nagakenet

信州とびのびになる子育ての輪

心豊かでのびのびと育つために



日本PTA関東ブロック研究大会長野大会が十月二十一日・二十二日の二日間、長野市内の会場に約千名の会員が集まり開催された。大会一日目は市内十二会場に分科会、二日目はホクト文化ホールにて全体会が行われた。秋の深まりを感じる中、子どもたちを支えるPTA活動を推進する決意を新たにしたい研究発表会となった。

肩を組み 育ちを見守る

今井仁志大会会長あいさつ

三月十一日の東日本大震災では、関東ブロック参加の各県も多大な被害を受けました。この状況を知るほどに、この大会の開催に不安を感じていました。しかし、各ブロックの方々に温かく強いメッセージを頂き、例年通り大会を開催することができました。そして「私たち関東ブロックのPTAは、世の中がどんな環境になろうとも「子どもたちを育む」責任から離れることはできない」との思いを強く持ちました。この大会に参加されたみなさんはその成果を持ち帰り、各協議会・各単位PTAで肩を組みながら子どもたちの育ちを見守って下さい。PTAの輪の中で、子どもたちがたくましく育つことを願ってやみません。

大会宣言決議

- 一、私たちPTAの共通の願いである「子どもたちの健やかな成長を支えること」のために、会員の英知を結集しPTA活動の活性化を図ります。
- 一、情報が氾濫し、価値観が多様化する現代社会の中、子どもたちに必要な規範意識と判断力を身につけさせる教育力ある家庭を築きます。
- 一、郷土の自然や文化を愛する心と、他者を思いやり自己を大切にすることの育ちを願い、子どもたちを見守り導くPTA活動を実践します。
- 一、家庭・学校・地域のより一層の連携を図り、子どもたちが安全にのびのびと過ごすことができる環境を整えます。

平成23年10月22日
第43回日本PTA関東ブロック研究大会長野大会

大会 スナップ

一日目 分科会



受付では資料と共にメッセージ付きの葉が配布された。



各会場にて研究テーマに沿った研究発表と研究討議が行われた。

二日目 全体会



開会式であいさつする今井大会会長。全体会には各地から二千人が集まった。



KISO源流と、AQUAaquaによる「信濃の国踊り」歓迎アトラクション。



大会旗が今井大会会長から静岡県PTA連絡協議会佐野会長へ引き継がれた。



会場ホールには、長野県物産品等の販売コーナーがあり、りんご、おやきなど好評だった。

CONTENTS

関東ブロック長野大会特集…2面



大会一日目は分科会、二日目の全体会では記念講演が開催されました。

校長会との教育懇談会……3面



校長会と県PTA代表との教育懇談会が行われました。

単P訪問……4面



専任・兼任の学校のある単PのPTA活動を紹介します。

今を変えれば、未来が変わるらしい。我が家で、長男の高校受験を半年後に控え、今を変える必要が生じた。現在の学力を上回る高校の選抜試験に挑戦したいらしい。この夏まで野球中心だった彼の中学生生活。本人の自覚がないようなので、彼の未来のために家庭で今を変えることにした。まず、家庭環境を見直した。そして、家庭学習の時間を大幅に増やせば、学力は高まるはずだと考えた。そこで、その障害となるインターネットの通信環境、ビデオ録画、ゲーム機などは撤去した。夜九時以降はテレビも照明も消すなど、文字通り今を変えさせた。我が家にとって大きな変化だ。当然ながら、夜は、間は読書をする。私自身は読書始めることにした。どうせなら難解な学術書に取り組みようと考えた。一通り読み終わるまで数週間を要するものもある。ビールを飲みながら、お笑い番組を見ているより、はるかに健康的だ。実際に夕食後の四時間程を読書に充てる。三か月で八キロほど体重が減った。自慢するほどのことではない。もともと体重が百キロ近かった。続けるうちに五歳になる次男が読み書きの練習で付き合っようになつてくれた。高校二年の次女はテレビに興味を示さなくなつてきた。どうやら、テレビがないと困るという幻想に駆られていたようだ。生活の変化は、私たちが家族に多くの「改道」をもたらした。やはり、今を変えれば、未来が変わるらしい。(H・E)



信州の牛乳

長野県牛乳生産販売委員会
信州 JA 全農長野
長野県牛乳普及協会

分科会

十一の分科会に分かれて、それぞれのテーマに基づいた研究発表や、討論などが行われた。紙面の関係上、一部の分科会の様子を紹介する。

第一分科会

主体的な参加意識を高める 組織と運営のあり方について

統合する小中学校のPTAの運営や、PTA活動のマンネリ化解消のための実践、学級懇談会を活性化させるための工夫などが発表された。どこ

第二分科会

子どもたちの安全を守るために、 家庭の意識を高め関わりを広げよう

家庭でできる子どもたちの安全教育について、ランティアップ募集の工夫や、

子どもたちの安全意識向上を目指した取組などが発表された。そして、校内、登下校の安全や防災などについて、幅広く熱心に意見交換が行われた。子どもたちの安全な環境づくりのために、子どもたちが学び考える機会を作りたいという参加者の声があった。

第四分科会

情報機器との関わりにおいて、 家庭の果たすべき役割を考えよう

情報モラルについて、携帯電話における問題点を啓発する活動や、家庭でのノーテレビ・ノーゲームデーの取組などの発表がされた。問題意識も高



りの中で家庭でのルールをきちんと決めていきたい。など感想が聞かれた。

第六分科会

子どもたちの健康と安全を日々 研らびの中を考えよう

子どもの健康を守るPTA活動についての発表があった。家庭・学校・地域を挙げての歯科保健活動の取組、親子での健康調査と、その結果からの啓発活動など、それぞれ

第十分科会

国際社会で生きていくために必要な 力と心を育むPTA活動について

他国の人たちとのような交流をしているかについて発表があった。外国籍の会員にPTA活動



た。これらの活動には、参考にしていけそうな内容もあり、質問も多く、活発な討論となった。最後に皆でヒーローを歌い、和やかに終わった。

お礼のご挨拶

長野県PTA連合会会員の皆様には、二日間に及ぶ長野大会が無事開催できましたこと、心から御礼申し上げます。また皆様には、二日目全体会の大幅な日程変更をお願いし、たいへんご迷惑をおかけいたしましたこと、大会実行委員長としてお詫び申し上げます。

構想から四年間の歳月をかけて開催いたしました長野大会、ご尽力いただいた方々と共に、私は楽しい時間をすごさせていただきました。こうした活動のすべは、必ず子どもたちにつながる、そう信じてやみません。ありがとうございました。実行委員長 小野 仁

特集 第43回日本PTA関東ブロック研究大会 長野大会

記念講演 「石原家における親の役割」

ホクト文化ホールにおいて、俳優としても気象予報士としても活躍の石原良純氏による記念講演が行われた。長野新幹線の遅れによる日程の変更があったが、石原氏のたくみな話術と内容に引き込まれる講演であった。

石原良純氏は、俳優になつたきっかけや、気象予報士になろうと思った少年時代の出来事、マラソンに挑戦する理由や、ご自身の著書である「石原家の人びと」を出版することになった経緯などを

を丁寧によく語った。また、自分と父親の、子どもへの接し方の違いや、小さい頃の思い出などから、今どきの父親の子育て事情なども話題に上った。東京都知事である、父親の石原慎太郎

氏の個人的なふるまいも、随所でおもしろく語られ、充実した一時間であった。講演後、会場インタビューに答えていただいた。

「子育てで一番大事なことは何か」との質問には「まず、子どもを愛してあげること。子どもと向き合っていてあげること、そして、自分のこと、もちろん、PTA活動もきちんとしない」と答えた。

最後の「石原氏のお母様はどんな方か」との質問には「うちの母親は、普通の人ですと照れ、たように返されたが、その後「男の子ばかりの四人兄弟だったので、大変だったと思います。きつた、必死で子育てしていったのだと思います」と結んだ。

分科会(人権)に参加しました。他人を思いやる心を育てるためには、まず、自分が子どもに対しても見つめなおすことが必要だとあらためて思いました。でも、それがなかなかできないのだけれど…。

昨年の当番(千葉県)だったので、興味深く参加しました。県によっても、学校によっても、抱える悩みは様々だけれど、思いをぶつけるよい機会になったし、参考になることも多かった。とても有意義な時間でした。



講師 石原良純氏

【プロフィール】

1962年 神奈川県生まれ 慶応義塾大学経済学部卒業
1984年 映画「凶弾」でデビュー 舞台、映画、TVドラマ、バラエティ番組と意欲的に活躍
1997年 気象予報士を取得 ウェザーキャスターも務める
2001年 新潮社より「石原家の人びと」小学館より「石原良純のこんな楽しい気象予報士」を出版。ベストセラーに

数制で、卒業までに一定の点数を集めるようになっていたため、今までも運動会の手伝いや交通整理などに参加したことがある。これからPTA活動にかかわっていくか」という質問には「PTAの役員をしている方はとても大変だと思うが、それは自分も同じで、やるべき時がきたらやる。そういうことも含めて、子育てだと思っている」と答えた。

「子育てで一番大事なことは何か」との質問には「まず、子どもを愛してあげること。子どもと向き合っていてあげること、そして、自分のこと、もちろん、PTA活動もきちんとしない」と答えた。

参加者の声

初めて参加しました。立派な会場で驚きました。一つ一つの企画がしっかりしていて本当に良かったです。

長野は山並みなど風景がとてもきれいでした。大会は丁寧に運営されていて、スタッフの苦労が見え、感動しました。心温まる大会でした。



分科会(食育)は身近なテーマでわかりやすかったです。他の県のPTA活動も見ることができ、大変参考になりました。来年は私たち静岡県での開催なので頑張ります。



資料の入った手提げ袋は持ちやすく、長野のPRが兼ねられていて素晴らしいと思いました。また、その中に入っていた袋の裏には、子どもたちからの手書きの心温まるメッセージがあり「お客様を迎える心」を勉強させられました。



第58集 信濃子ども詩集

編集 長野県作文教育研究協議会

●子どもたちの素直な詩がいっぱい!

毎年、県下大勢の子どもたちの作品が編まれる「信濃子ども詩集」も今年で58集目になります。子どもたちの心の動きや、様々なできごとをおして成長していく様子が書かれた詩をぜひ、ご家族と一緒にお読みください。



(58集掲載作品より)

仕様 ●1・2・3年級 (4・5・6年級) 2分冊
●各分冊約200頁 定価1,000円(税込)

発行 社団法人 信州教育出版社
(旧 社団法人 信濃教育出版部)

ご注文・販売は、株式会社しんきょうネットにて承っております。TEL026-233-1135

あこがれを生み 希望を育てる



飯島町 七久保小学校

上伊那郡南部の「ふたつのアルプスが見える町」飯島町。天竜川の支流である与田切川が流れ、学校周辺には地域の人々が憩う公園やキャンプ場がある。清流の恵みを受け四季折々の表情を見せる七久保の地に123名の児童が学ぶ。「こつこつ学ぶなかよしの学校」を教育目標に掲げ、地域に愛され育まれてきた学び舎は来年度140周年を迎える。



単位PTA訪問 No.72

かしこく やさしく たくましく



南相木村 南相木小学校

南佐久郡の群馬県境、細長い地形の緑豊かな山あいの地に、千曲川の支流である南相木川が谷間を縫うように流れている。その道沿いの、手入れの行き届いた前庭を通り抜けると61名の児童が通う学び舎がある。学校教育目標に「かしこく やさしく たくましく」を掲げ、郷土への愛着と誇りをもった心豊かな人づくりをめざして、さまざまな取り組みを行っている。



地域に見守られて
いる子どもたち
スローガン「広げよう
親の輪！ 守ろう子ども
の笑顔」積極参加で膨
らむ絆 広がる笑顔！

のものと、少人数だからこ
そできるひとりを大事に
する活動を行っている。毎
年七月には、育成会

「こつこつ学ぶなかよしの学校」を教育目標に掲げ、地域に愛され育まれてきた学び舎は来年度140周年を迎える。

の共催で「子どもカ
ニバル」七久保を開
催する。子どもたちが主
役になるお祭りとなるよ
うに家庭・学校・地域が
サポートをしている。七
久保線断ウルトラクイズ
やじやんけん大会、かく
し芸を披露するN1グラ
ンプリなど内容は盛り沢
山である。中でも子ども
たち自身が考え、親
子で共同制作した子
どもみこしは、四基
とも力作となってい
る。自慢のみこしを
担ぎ、夕刻の校庭を
練り歩く子どもたち
の顔は、充実感で溢
れている。その姿は、
地域の方々にも温か
く見守られ続けている。

「こつこつ学ぶなかよしの学校」を教育目標に掲げ、地域に愛され育まれてきた学び舎は来年度140周年を迎える。

の共催で「子どもカ
ニバル」七久保を開
催する。子どもたちが主
役になるお祭りとなるよ
うに家庭・学校・地域が
サポートをしている。七
久保線断ウルトラクイズ
やじやんけん大会、かく
し芸を披露するN1グラ
ンプリなど内容は盛り沢
山である。中でも子ども
たち自身が考え、親
子で共同制作した子
どもみこしは、四基
とも力作となってい
る。自慢のみこしを
担ぎ、夕刻の校庭を
練り歩く子どもたち
の顔は、充実感で溢
れている。その姿は、
地域の方々にも温か
く見守られ続けている。



「こつこつ学ぶなかよしの学校」を教育目標に掲げ、地域に愛され育まれてきた学び舎は来年度140周年を迎える。

の共催で「子どもカ
ニバル」七久保を開
催する。子どもたちが主
役になるお祭りとなるよ
うに家庭・学校・地域が
サポートをしている。七
久保線断ウルトラクイズ
やじやんけん大会、かく
し芸を披露するN1グラ
ンプリなど内容は盛り沢
山である。中でも子ども
たち自身が考え、親
子で共同制作した子
どもみこしは、四基
とも力作となってい
る。自慢のみこしを
担ぎ、夕刻の校庭を
練り歩く子どもたち
の顔は、充実感で溢
れている。その姿は、
地域の方々にも温か
く見守られ続けている。

の共催で「子どもカ
ニバル」七久保を開
催する。子どもたちが主
役になるお祭りとなるよ
うに家庭・学校・地域が
サポートをしている。七
久保線断ウルトラクイズ
やじやんけん大会、かく
し芸を披露するN1グラ
ンプリなど内容は盛り沢
山である。中でも子ども
たち自身が考え、親
子で共同制作した子
どもみこしは、四基
とも力作となってい
る。自慢のみこしを
担ぎ、夕刻の校庭を
練り歩く子どもたち
の顔は、充実感で溢
れている。その姿は、
地域の方々にも温か
く見守られ続けている。



「こつこつ学ぶなかよしの学校」を教育目標に掲げ、地域に愛され育まれてきた学び舎は来年度140周年を迎える。

の共催で「子どもカ
ニバル」七久保を開
催する。子どもたちが主
役になるお祭りとなるよ
うに家庭・学校・地域が
サポートをしている。七
久保線断ウルトラクイズ
やじやんけん大会、かく
し芸を披露するN1グラ
ンプリなど内容は盛り沢
山である。中でも子ども
たち自身が考え、親
子で共同制作した子
どもみこしは、四基
とも力作となってい
る。自慢のみこしを
担ぎ、夕刻の校庭を
練り歩く子どもたち
の顔は、充実感で溢
れている。その姿は、
地域の方々にも温か
く見守られ続けている。

の共催で「子どもカ
ニバル」七久保を開
催する。子どもたちが主
役になるお祭りとなるよ
うに家庭・学校・地域が
サポートをしている。七
久保線断ウルトラクイズ
やじやんけん大会、かく
し芸を披露するN1グラ
ンプリなど内容は盛り沢
山である。中でも子ども
たち自身が考え、親
子で共同制作した子
どもみこしは、四基
とも力作となってい
る。自慢のみこしを
担ぎ、夕刻の校庭を
練り歩く子どもたち
の顔は、充実感で溢
れている。その姿は、
地域の方々にも温か
く見守られ続けている。

自然に恵まれた地域に
住んでいながら、実際に
は、自然に触れる機会が
減ってきている。そんな
子どもたちに、何かよい
体験はないかという保護
者の願いから「魚ふれあ
いの日」が始まった。

「こつこつ学ぶなかよしの学校」を教育目標に掲げ、地域に愛され育まれてきた学び舎は来年度140周年を迎える。

の共催で「子どもカ
ニバル」七久保を開
催する。子どもたちが主
役になるお祭りとなるよ
うに家庭・学校・地域が
サポートをしている。七
久保線断ウルトラクイズ
やじやんけん大会、かく
し芸を披露するN1グラ
ンプリなど内容は盛り沢
山である。中でも子ども
たち自身が考え、親
子で共同制作した子
どもみこしは、四基
とも力作となってい
る。自慢のみこしを
担ぎ、夕刻の校庭を
練り歩く子どもたち
の顔は、充実感で溢
れている。その姿は、
地域の方々にも温か
く見守られ続けている。

の共催で「子どもカ
ニバル」七久保を開
催する。子どもたちが主
役になるお祭りとなるよ
うに家庭・学校・地域が
サポートをしている。七
久保線断ウルトラクイズ
やじやんけん大会、かく
し芸を披露するN1グラ
ンプリなど内容は盛り沢
山である。中でも子ども
たち自身が考え、親
子で共同制作した子
どもみこしは、四基
とも力作となってい
る。自慢のみこしを
担ぎ、夕刻の校庭を
練り歩く子どもたち
の顔は、充実感で溢
れている。その姿は、
地域の方々にも温か
く見守られ続けている。

「こつこつ学ぶなかよしの学校」を教育目標に掲げ、地域に愛され育まれてきた学び舎は来年度140周年を迎える。

大切なお子さまのための保険です。詳しくは、2013年2月頃に学校を通じて配られる緑色の封筒に入ったパンフレットをご覧ください。

PTA小・中学生総合補償制度

ケガをした 入院1日目から補償
ケガをさせた 左連に大ケガをさせてしまった
病気で入院した 日帰り入院から補償※17シの計

長野県PTA連合会が
平成10年より導入している制度です。

〇24時間いつでもどこでも補償します
〇個別加入に比べて保険料は約43%割安です。(注)
〇保険料は年間3,000円からのパターンをご用意しております
(注)上記の割引率(約43%)は、この制度の被保険者数と保険金のお支払の状況によっては、今後変更となる場合があります。

引受保険会社：共栄火災海上保険株式会社 〇お問い合わせ：小中学生総合補償制度担当係
電話番号：026(234)2180

承認番号B1122820A1045

編集後記

飯島山の方向から冷たい北風が吹いてくる。冬の盛りに行われている。我が家は、父親がバックホウで土を上げ、私がスコップで雪を掘り上げ、母親が種箱にコンテナに入れて、私が手伝えるのは休日だけで、普段は二人何十年続いているのだから、私の記憶の中の両親は、暑い日も寒い日もいつも畑にいた。子どもに対しても、難しいことは言わず、黙々と働いていた。

三十年ほど前の夏、大雨で千曲川が溢れ、土手の中の水が押し寄せ、土手の引いた畑に誘われた。種箱を植えてから二ヶ月「芋なんかない」といふ事、事から外れた。残った土の事から立派な芋が出てきたのだ。芋はもうできていた。あと数ヶ月は栄養を蓄え味を作る期間だと教えられた。気の遠くなるほどの細やかな作業が欠かれない。放っておけば育たない。手をかけすぎてもいけない。子育てでよく似ている。(I・M)

「こつこつ学ぶなかよしの学校」を教育目標に掲げ、地域に愛され育まれてきた学び舎は来年度140周年を迎える。

の共催で「子どもカ
ニバル」七久保を開
催する。子どもたちが主
役になるお祭りとなるよ
うに家庭・学校・地域が
サポートをしている。七
久保線断ウルトラクイズ
やじやんけん大会、かく
し芸を披露するN1グラ
ンプリなど内容は盛り沢
山である。中でも子ども
たち自身が考え、親
子で共同制作した子
どもみこしは、四基
とも力作となってい
る。自慢のみこしを
担ぎ、夕刻の校庭を
練り歩く子どもたち
の顔は、充実感で溢
れている。その姿は、
地域の方々にも温か
く見守られ続けている。